

健康的な食品が手に入りやすい環境では 冠動脈石灰化のリスクが低減する可能性あり

いくつかの研究では近隣環境の貧弱さが無症候性アテローム性動脈硬化症と関連することが示唆されているが、具体的に近隣環境のどのような側面が関係しているのかは特定されていない。本研究では、近隣環境の社会的、身体的な特徴と無症候性アテローム性動脈硬化症の進行とに関連について検討した。

12年間にわたって複数回のCT検査を受けた成人5,950人のデータを用い、冠動脈の石灰化をもとに無症候性のアテローム性動脈硬化症の評価を行った。近隣環境の特徴については、レクリエーション施設の充実度、健康的な食料品店の密度、歩く環境が整っているかなどを調査した。その結果、近隣の健康的な食品店の多さが冠動脈石灰化の所見の減少と関連していた(近隣環境が1標準偏差改善するごとに冠動脈石灰化の所見の平均変化が-19.99)。

したがって、中高年の成人においては健康的な食品を入手しやすい環境であるほど、健康的な食事を摂るようになり、冠動脈硬化症の発症を抑制できる可能性が示唆された。

出典：Circulation. 2016; 134(7): 504-513